

☆☆☆ 偕楽園でどんなところ？ ☆☆☆

偕楽園は、徳川齊昭によって造られ、1842年に開園しました。弘道館ではたくさん勉強をし、勉強でつかれた心をいやすための場所として偕楽園を造ったのです。偕楽園には「ひとびととともに楽しむ園」という意味があります。このような齊昭の考えは、「偕楽園記」という石碑にきざまれて残っています。

偕楽園は、3000本もの梅の木が植えられ、四季おりおりの自然が楽しめます。干波湖や桜山を背景にしたスケールの大きな景色が美しい公園です。公園の中にある好文亭は、齊昭が設計した、茶の湯などの行事に使う工夫がいっぱいの建物です。偕楽園では梅まつりや萩まつりなどの様々な行事が行われ、たくさんの人がおとずれるいこいの場所になっています。



☆☆☆ 3度もこわれた偕楽園 ☆☆☆



今は工事中の好文亭

3月11日の震災で被害を受けた偕楽園ですが、実は、好文亭はこれまでも2回再建されています。1回目は昭和20年の空襲で、2回目は昭和44年の落雷で燃えてしまったためです。空襲で燃えたときは、江戸時代に造られたときと同じ姿にするため、しんちょうに再建の計画がたてられました。焼けあとから細かい部品を探し出し、古いお寺などを直すせんもんの会社に工事を頼んで、10年のさい月をかけて直したそうです。今回の震災でも、復興支援の会の人々が募金を集め、1日も早く直そうと努力しています。

偕楽園はどうしてこんなに大切にされてきたのでしょうか？疑問に思っ、偕楽園にかかわっているいろいろな人の思いをみんなで調べました。

☆☆☆ 偕楽園に対する人々の思い ☆☆☆

○偕楽園公園を愛する
市民の会の人たち

- ・さらによくして伝えたい。
- ・大切な歴史資産。
- ・みんなによく知ってほしい。
- ・齊昭が作ったもの。
- ・心のふるさと。
- ・大きな借景のある美しい公園。



○歴史アドバイザーの人

- ・齊昭の考えをあらわした公園。
- ・たからもの。

○市役所の人

- ・学問、教育遺産だから。
- ・日本のほこるすばらしい庭園

○復興支援の会の人

- ・観光に大事。
- ・ただ直すだけでなく、よりよいものにしたい。

○拙誠会(せつせいかい)の人

- ・自然を生かした公園。
- ・水戸の人にとってのほこり。
- ・心がとても落ち着く場所。
- ・昔の人と同じ気持ちだったと思う。

○家の人

- ・リラックスできる大事な場所。
- ・観光のためにも大切。
- ・思い出深い場所。
- ・古くから残ってきたもの。
- ・大好きな場所。

だから守りたい

☆☆☆ まとめ ☆☆☆

偕楽園は古い歴史があり、自然の美しい公園です。徳川齊昭の心をあらわした公園でもあります。水戸の人たちに愛されるたからものようなものだから、ずっと長い間守られてきたということがわかりました。

偕楽園のことについて調べてみて、私たちも偕楽園が好きになりました。偕楽園のことをもっと知りたいし、たくさんの人に偕楽園のことを知ってほしいと考えるようになりました。そして私たちも、偕楽園をずっと大事に守っていきたいと思っています。